

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当	
A-120	A-135	23-062	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Quantifying alcohol-attributable disability-adjusted life years to others than the drinker in Aotearoa/New Zealand: A modelling study based on administrative data ニュージーランドにおける飲酒者以外へのアルコール起因性障害調整生存年数の定量化：行政データに基づくモデリング研究			
執筆者			
Casswell S, Huckle T, Romeo JS, Moewaka Barnes H, Connor J, Rehm J.			
掲載誌			
Addiction. 2024 May;119(5):855-862. doi: 10.1111/add.16435.			
キーワード		PMID	
障害調整生存年 (DALYs)、胎児性アルコールスペクトラム障害、対人暴力、アルコールによる他者への危害の定量化、交通傷害		38408750	
要 旨			
<p>背景：アルコールの健康負荷を定量化については、これまで主に飲酒者に対する害に焦点が当てられてきたが、これは過小評価である。アルコールの他者への害 (HTO) に関する文献は増えているが、HTO を比較リスク評価の枠組みに体系的に移行させるまでには至っていない。本研究では、他人の飲酒による胎児性アルコールスペクトラム障害 (FASD)、対人暴力、交通事故による障害調整生存年 (DALY) を算出した。</p> <p>方法：本研究は、2018 年のニュージーランド集団を対象とした DALYs のモデリングを用いた疾病負荷分析である。他人の飲酒の関与は、有病率、アルコール起因率調査、行政データから得た。FASD の障害重み (DW) は、β-Pert 確率分布を用いて胎児性アルコール症候群 (FAS) の重みから適応した。対人傷害の DW は、傷害補償に関連する病院イベントを用い、交通傷害の DW は病院イベントを用いた。集団は民族、年齢、性別で層別化した。飲酒者の DALYs の過去の推定値との記述的比較を行った。</p> <p>結果：2018 年のニュージーランドにおいては、アルコールの HTO により 78,277 健康人年が失われた。主な原因は FASD (90.3%) で、次いで交通事故 (6.3%)、対人暴力 (3.4%) であった。先住民であるマオリ族は、より高い割合で影響を受けた (マオリ族の DALY は人口 1000 人当たり 25、非マオリ族は人口 1000 人当たり 15)。HTO の負担は飲酒者より大きかった (HTO の DALY=78277、飲酒者の DALY=60174)。</p> <p>結論：FASD による障害は、ニュージーランドにおけるアルコールによる他者への危害の主な原因であると思われる。FASD を考慮すると、他者への危害の健康負担は飲酒者への危害よりも大きく、民族差も生じている。害の負担を定量化することは、効果的なアルコール政策を実施するための価値があり、これらにはあらゆる害を含んで評価すべきである。</p>			